



MURAKAZA NEZA MU RWANDA Vol.8

(Welcome to Rwanda)

JICA 海外協力隊（2022年度1次隊）
ルワンダ共和国 シンゴマ郡 ムラマセクター配属
コミュニティ開発 水の防衛隊
五十嵐貴昭

目次



※地元の市場に売られているパン

1

故障報告問題を解決する糸口

2

井戸に設置するメタルプレートに関して

3

ルワンダの行政から予算をいただけることに！

4

ルワンダ行政から予算を獲得する大切さ

1.故障報告問題を解決する糸口

「井戸故障時の対応方法の不知」に関して、ルワンダの多くの住民が携帯電話を所持していることを踏まえ、故障報告用の電話番号を周知することで、多くの人に対応方法を理解し、迅速な報告をいただけるようになると考えました。また「故障報告を妨げている心理的要因」に関しては、「ナッジ理論」を活用することで解決できるのではないかと着想しました。

ナッジ理論とは「選択の余地を残しつつも、人々をより良い方向に誘導する手法」として知られていて、私達の日常生活でも多く活用されています。この理論を利用し故障報告の意思決定を手助けすることで、住民から連絡をいただける確率を高めることができると考えました。掲載している画像のように、タクシーの違法駐車を予防する取り組みや、無意識に列を作ってしまうスーパーのレジ前に設置された足跡等が実例として挙げられます。

ナッジ理論の運用に際して、私は専門的な知識を持ち合わせていなかったため、正確な知識を用いて問題解決の可能性を高めるために、ナッジ理論を専門とする企業や大学教授の方々に協力を依頼しました。その結果、山根承子氏（株式会社パパラカ研究所）にご協力いただけることとなり、ナッジ理論を活用した井戸故障報告改善に取り組むこととなりました。



※出典 環境省 令和4年度ベストナッジ賞
応募者：（株）NTT データ経営研究所
内容：タクシー駐停車マナー改善ナッジ

2. 井戸に設置するメタルプレートに関して

故障報告用の電話番号と、報告の意思決定を手助けするナッジを使った文章を掲載したプレートを、ハンドポンプ井戸に設置することで、水を汲む多くの人に報告方法を伝え、報告の意思決定を促進できると考えました。ナッジ理論を利用した文章に関しては、ルワンダの人々の日常的な意思決定の傾向を考慮し、山根氏の監修のもとで、損失回避と利他性の2種類のナッジを活用することとなりました。

メタルプレート作成後は、ンゴマ・カヨンザ・ルワマガナ各郡の井戸に設置予定です。



※ 作成予定のメタルプレート

プレートに記載している文章の翻訳

もしハンドポンプ井戸が故障した場合は、この電話番号に電話をしてください。**報告されないと修理ができず、今後このハンドポンプを使うことはできません（損失回避）。あなたの報告は、他の村人を助けることになります（利他性）。**

3. ルワンダの行政から予算をいただけることに！

ンゴマ・カヨンザ・ルワマガナ各郡庁にて、報告改善案を共有し、その実施許可をいただくと同時に、業務費申請（配属機関に代わりJICAが隊員の活動経費を支援する制度）に関する手続きについて相談しました。すると、ンゴマおよびルワマガナ郡庁から、資金提供をしていただけることになりました。予算をいただけるまでには時間がかかることが予想されますが、援助国からの一方的な支援の有効性に疑問を抱き、援助国と被援助国の両者が互いに協力する必要性を感じていたので、この機会を必ず実現させようと考えました。

4. ルワンダ行政から予算を獲得する大切さ

なぜ、ルワンダ行政からの資金提供の実現にこだわるのかについて、私の独自の意見を述べさせていただきます。

これまでの国際協力では、援助国が被援助国に対して一方的に資金や物資を供給するケースが多かったと思います。確かに、これまでの開発援助によって、多くの発展途上国は著しい発展を遂げてきたことは間違いありません。今後もその支援は重要だと考えています。

しかし、現場での活動を通じて「援助慣れ」が見受けられ、多くの住民が援助を受けることを当然と考えている場面に直面しました。例えば、一部のハンドポンプ井戸は、JICAや中国の支援で建設されていることから、それらの井戸に対して「私達が作った井戸ではない」との認識が広まり「故障後はJICAもしくは中国が直してくれる」と考える人が多いことで、故障後には放置されることが頻発していました。このことから、我々人間は関与が少ない物事に対して主体性を持ちにくいと感じました。

多くの援助国は、被援助国がいずれ援助から自立し、各国自身で発展することを望んでいると思います。しかし「援助慣れ」によって被援助国による援助国への依存度が低下していないように感じます。（ただし、被援助国の方々の意識が悪いわけではなく、むしろこれまでの援助のあり方が、援助慣れを生み出してしまった側面もあると考えています。）

そのため、ルワンダの行政による資金提供を通じて、プレートや井戸故障報告に関する自発性を現地の郡庁職員に持っていただけるようにしたいと考えています。援助する側と援助される側の相互協力によって実現できる国の発展が、今後の国際援助の理想的な姿だと私は考えています。この機会を通じて、ンゴマ郡およびルワマガナ郡の職員の意識に少しでも変化が生じることを願っています。